



場所： メッセ・ベルリン国際見本市会場  
(ドイツ連邦共和国/ベルリン)  
会期： 2014年9月23日-26日  
主催： メッセ・ベルリン社  
開催： 隔年

## THE FUTURE OF MOBILITY

次回 InnoTrans 2016  
2016年9月20日-23日

トレードビジター数、出展者数ともにレコード  
全部門での伸び、ビジネス推進、業界の対話を活性化  
多数の商談、ビジネス連携協定の成立  
屋外展示車両145



### 世界最大の鉄道技術専門見本市 — 第10回目開催もレコード達成

第10回を迎えたInnoTrans2014は、世界屈指の交通技術における国際的トレードフェアとして、全分野で成長、レコードを達成しました。

2,758/55カ国の出展者は、鉄道技術の数々のイノベーションをベルリンで披露し、その出展者の61%がドイツ国外からという、高い国際性を示しました。

また146国から138,872人のトレードビジターが来場し、会場であるBerlin Expo Center Cityの全スペースを使用して展開、実質展示面積は102,843㎡となりました。InnoTrans2014では、出展者数、トレードビジター数ともおよそ前回比10%増となりました。さらにドイツ国外からの出展者は4%、実質展示面積は9%増加し、屋外展示場には145の車両が展示されました。

また140を超える製品がワールドプレミアを飾り、鉄道業界のイノベティブさ、そしてマーケティング・プラットフォーム、イノベーションの促進力としてのInnoTransの重要性が大いに示されました。

#### 受注の場としての重要性

InnoTrans2014での会期中の受注は数百万ユーロにのぼり、合併事業に関する多くの合意が成立、発表されました。例えばStadler Railは、フィンランドの鉄道事業者Junakalusto Oyが2億ユーロに相当する34台のFlirt車両を追加注文したと発表し、ドイツ鉄道とポーランドの車両メーカーPesaは、バイエルン州向けの路面電車車両26台の供給に関する合意書に署名しました。ドイツ鉄道によると、この合意に投資された額はおよそ1億ユーロにのぼります。

またAlstomとVosslohは、Vosslohの機関車に最新の列車管理システム(ETCS)を

装備するという1,100万ユーロの契約を交わしました。さらにドイツ鉄道とフランスの鉄道事業者SNCFは、フランスのTGVとドイツのICEによる国境を越えた高速運行に関する協力協定を2020年まで延長することに合意しました。日本の東芝グループとシンガポールのSingapore Rail Engineeringは、InnoTrans2014で合弁会社を設立することを発表しました。

#### 屋外展示車両数もレコード

InnoTrans史上最高となる145台の車両が屋外展示場と3,500mに及び線路上に展示されました。プレス・イベントでは、大手車両メーカーが17のイノベティブな車両を披露し、顧客への引き渡し式が行われ、大きな注目を集めました。

Alstomはドイツ鉄道と共に、H3ハイブリッド機関車を披露し、Bombardierは、イタリアのAnsaldoBredaと鉄道事業者Trenitaliaと共に高速列車Frecciarossa 1000を展示しました。Siemensは英国のMcLoughlin運輸大臣列席のもと、Desiro City Thameslink 車両を発表し、初めて一般公開しました。Pesa社は、InnoTransでのオフィシャル・セレモニーで、ドイツ鉄道向けに製造された初めてのポーランド製車両DB Linkを引き渡しました。またVosslohのG18 機関車のSpitzke社への引き渡し式も行われました。Stadler社は、セルビアの鉄道事業者と共に、Fliert 3 近郊鉄道車両をお披露目しています。

#### ますます高まる国際性

ドイツ国外からの出展者は、前回に比べ4%増え、61%となり、21カ国から35の業界団体や協会が参加しました。アルゼンチン、モロッコ、ペラルーシ、リトアニア、マケドニアが初出展し、今回欧州以

#### 統計データ (2014) 暫定

総展示面積	200,000㎡
実質展示面積 (屋外展示含む)	102,843㎡
屋外展示レールの長さ	3,500m
出展者数	2,758社/55カ国
うちドイツ国外からの割合	61%
トレードビジター数	138,872/146カ国
展示車両数	145
開催間隔	隔年



外の出展者は初めて17%に達し、アジア、南北アメリカからの出展者は、過去最高の伸びを示しました。中国とアメリカの伸びは特に顕著で、2012年に比べ、中国からの出展者数は41%、米国は71%増加しました。出展面積が50%以上増加したのは、ポルトガル、ハンガリー、ルーマニア、アイルランド、トルコで、アメリカ・パビリオンは前回の2倍となりました。日本パビリオンは、前回に続き1ホール全てを使って出展しました。

#### 出展者・トレードビジターアンケート結果

InnoTrans2014に対する評価では、出展者とトレードビジターともポジティブで、出展者の約90%が、InnoTransを他の人々に推薦するだろうと回答し、次回も参加したいと回答しています。出展者の90%以上がInnoTrans全体にプラスの印象を持ち、出展後のフォローアップ・ビジネスに期待しています。トレードビジターの90%が、展示と今回の来場のビジネス成果に満足だと回答しました。また前回に比べて、トレードビジターの決定責任がより高くなっています。



## Philippe Citroën, Director General Association of the European Rail Industry (UNIFE)

UNIFEにとってInnoTransは、グローバルな鉄道業界の最重要な集まりである。今年も参加者が非常に多く、これは鉄道業界および鉄道による持続可能なモビリティのための明るい未来を証明している。展示されたイノベーション、未来の鉄道セクターのためのアイデアやプランの情報交流は、鉄道輸送をより魅力的なものにするために必要不可欠であり、自動車や航空機から鉄道へのモーダルシフトを促すものである。

## Dr. Jochen Eickholt, CEO, Division Rail Systems, Infrastructure & Cities, Siemens AG

InnoTrans2014では、デジタル化が交通システムにおいてもますます重要な役割を果たすということが示された。モビリティ4.0が今回の重要テーマの1つだった。シーメンスでは、従来の鉄道システムに加えて、交通ネットワークのデジタル化とインテリジェント・ネットワークキングが、自社の主要な業務分野である。InnoTrans2014で我々が披露したこの分野のイノベーションが、顧客だけでなく政治サイドからも大きな関心を集めた。InnoTransは、交通業界の将来に向けての推進力を提供する重要な場であることをあらためて証明した。

## Dr. Rüdiger Grube, CEO Deutsche Bahn AG

InnoTransはドイツ鉄道にとって大成功だった。あらゆるレベルで - 特にアジアや中東の顧客とビジネス関係を構築し拡大することができた。公共交通への関心は、デジタル時代の将来の鉄道輸送において増大しており、今回のInnoTransは、あらためてそれを示した。これまでで最大規模の開催となったInnoTransは、今後も業界の最も重要なミーティングプレイスであり続ける。

## Prof. Dr. Ronald Pörner, Managing Director of the German Railway Industry Association (VDB)

世界の中でベルリンのInnoTransは鉄道システムと鉄道輸送技術の中核となる場である。2014年、将来の交通ソリューションを展望するユニークなInnoTransは、またもやそれを事に証明した。ドイツの鉄道業界の高い期待に応え、そしてはるかにそれを凌駕した。InnoTransは、会員企業のビジネスに多くの利益をもたらすと確信している。

さらに日本から以下の各社が単独出展しています。

- アネスト岩田 (株)
- 東日本旅客鉄道 (株)  
共同出展：(株) 総合車両製作所
- (株) フォーラムエイト
- 富士電機 (株)
- 日立アプライアンス (株)
- (株) 日立製作所
- 日立金属株式会社
- (株) 日立ニコトランスミッション
- 日立造船 (株)
- 川崎重工業 (株)
- カヤバ工業 (株)
- (株) 明電舎
- パナソニック (株) (Panasonic Marketing Europe GmbH)
- 積水化学工業 (株)
- 住友電気工業株式会社
- 東海ゴム工業 (株) (現 住友理工 (株))
- (株) 東芝
- 東洋ゴム化工品 (株)

(アルファベット順)

## Jürgen Fenske, President of the Association of German Transport Companies (VDV)

InnoTransは、世界最大かつ最重要な鉄道業界イベントとしての役割をさらに明確に示した。10万㎡に及ぶ展示スペースに集められた多数の幅広い鉄道関連製品は、ドイツにおいて鉄道輸送が、依然、いかに重要であるかをはっきり示している。ドイツにおける鉄道・公共交通が、将来にわたって重要な雇用主であり、サービス提供者であり続けるよう、InnoTransに多数来場していた政界のディビジョン・メーカーと共に、業界として努力し続けなければならない。

## Henri Poupart-Lafarge, President Alstom Transport S.A.

Alstomは、モビリティの未来を日々追求している。InnoTransのように、関係者と情報交換し、自社のイノベーションや数々の技術を披露できる場所はほかにはない。InnoTrans主催者に感謝するとともに、2016年のInnoTransでまた皆様にお目にかかりたい。

### InnoTrans会議 - 絶好の対話の場

InnoTrans会議は、5つの主要フォーラムで構成され、トップクラスの参加者による全11の専門フォーラムが開催されました。フォーラムでは、モビリティの最新テーマについて話し合わせ、業界における今後の持続的討論を促しました。

Dialog Forumでは特にドイツとヨーロッパの鉄道技術の認証の見通しと公共近距離交通の財政赤字が取り上げられました。

Rail Leaders' Summitは、世界の鉄道業界のトップクラスの関係者が参加したパネル・ディスカッションであり、“Mobility 4.0”もテーマの1つでした。この会議でドイツのAlexander Dobrindt連邦交通・デジタルインフラ大臣は、デジタル化のインテリジェントな応用により、鉄道が未来の交通手段になりうることを強調しました。

International Design Forumでは、デザインとモビリティのより密接なリンクについて討論され、International Tunnel Forumでは、建設してから150年になる一部のヨーロッパ鉄道トンネルのメンテナンスの必要性の高さが焦点となりました。DB Suppliers' Forumでは、ドイツ鉄道が、サプライヤーからの質問に答える場が提供され、Public Transport Forumでは、乗客に対するデジタルでリアルタイム情報の重要性が主要テーマとなりました。

次回InnoTrans2016に  
是非ご出展・ご来場ください！

## 日本のプレゼンス

日本鉄道車両輸出組合 (JORSA) がとりまとめる日本ブースは、さらに拡大したホールを前回同様1ホール全体を使って15社が共同出展し、高い関心を集めました。

共同出展者：

- 近畿車輛 (株)
- 近鉄車両エンジニアリング (株)
- (株) 京三製作所
- 三菱電機 (株)
- 三井物産プラントシステム (株)
- ナブテスコ (株)
- 日本信号 (株)
- 日本車輛製造株式会社
- 新日鐵住金株式会社
- (財) 鉄道総合技術研究所
- 住友商事 (株)
- 大誠テクノ (株)
- 東京地下鉄 (株)
- 東洋電機製造 (株)
- (株) ヤシマキザイ

Save the date!  
InnoTrans 2016  
2016年9月20日  
-9月23日

メッセ・ベルリン日本代表部

〒102-0075 東京都千代田区三番町2-4  
三番町KSビル 在日ドイツ商工会議所内  
Tel: 03-5276-8730 Fax: 03-5276-8735

info@messe-berlin.jp